

アメリカの外交政策を理解するために

(その1) statecraft (ステイトクラフト)

吉岡太史

ニュースを見ていると毎日のようにアメリカの外交に関わる話題が出てきます。トランプ大統領の「アメリカ・ファースト」、TPPやパリ協定からの離脱、中国との対立、イランとの衝突、そして「日米同盟」に関わる諸問題。世界と日本の政治・経済・社会に大きな影響を及ぼす米国の外交をどのように理解したらよいのでしょうか。私自身が米国で学んだ経験を交えながら、アメリカの外交政策を理解するうえでポイントとなるいくつかのキーワードについて紹介していきたいと思います。第一回は「statecraft (ステイトクラフト)」です。

statecraftを英和辞典で調べると「国政術、政治的手腕」といった意味が出てきます。この単語には「craft」という言葉が入っていますが、これはある技術を用いて物・事・方法などを作りあげていくという意味があります。つまり、国家に資する政治と外交を作りあげていく過程がstatecraftと言えるでしょう。

私がワシントンD.C.で学んだ教育研究機関 The Institute of World Politics (IWP) のジョン・レンチョウスキー学長はstatecraft について、「国益を守り、国際関係を円滑なものとし、世界の平和を構築するために、国力におけるあらゆる手段と方法を用いることである」と述べ、そうした手段と方法には「軍事戦略、対政府外交及び対市民・広報文化外交、政治的・心理的戦争、インテリジェンス、経済政策、地政学、そして近年のサイバー戦略が含まれる」と説明しています。いうなれば、アメリカの国力のありとあらゆる人的・物理的資源を用い、米国の国益とそれに資する世界の「安定と平和」をめざすのがアメリカ外交におけるstatecraft の目的と言えるでしょう。

実際、私が学んだIWPのいくつかのクラスでは、米国外交政策の策定過程にも関わった経験のある教授たちからdiplomacy (外交)、intelligence (インテリジェンス)、military (軍事)、economy (経済) の四つの視点からアメリカの国益に資する外交戦略メモを作成する課題が出されました。例えば、「2022年のフィリピン大統領選で米国の国益にかなう大統領を擁立する戦略」、「北朝鮮の核開発に対する米国の国益に資する対抗策」を提案せよ、といった課題です。

この四つの視点はDIME (ダイム) とも呼ばれているようですが、アメリカ外交におけるstatecraft は、米国の国益と世界の「安定と平和」を同時に成し遂げようとするところにその特徴があります。米国の歴代政権及び現トランプ政権とstatecraft のありうべき「理想」との間の距離を見定めることもアメリカ外交を理解する一つの指標となるでしょう。今回は、米国外交における「理想主義」と「現実主義」のジレンマについて紹介したいと思います。

この風に吹かれて⑬ 全国学力テスト

山崎 きよ

娘は現在小学校6年生。6年生と言えば全国学力テスト。昨年4月16日に実施され娘も受けました。それから1学期も過ぎ、2学期も終わりの12月23日、学校から通知が来ました。「全国学力・学習状況調査の個人票について」の文書と娘の個人結果です。「本校では今後、分析結果をもとに授業改善や指導の充実に活かしてまいります」とあります。学校にはもっと早く結果が届いているのかもしれませんが、授業改善をする時間があるのか疑問です。また娘の個人票を見てもどんな力が足りなくて、どこを伸ばせばいいのかもさっぱり分かりません。これに毎年50億円以上かけているとはどうかしています。

土佐町で全国学力テストを抽出調査にという意見書が通ったという報道があり、とても嬉しく思いました。隣の町である我が町の町でも意見書を提出したいのですが、反対が多くなる可能性は大きく、安易に出せません。一般的に学力テストは肯定的にとらえられています。以前、私が教育長に全国学力テストをやめたいかと質問した時、「子ども一人一人につけるべき学力を把握し、研究を進め授業改善等に取り組みんでいくために」必要であると答弁しました。この考えは保護者の中にも広く浸透していると感じているので、覗きなして「学力はタマ」と言えない雰囲気です。では、学力テストでいったいどんな学力を付けようとしているのか。最近、学校の参観日等で先生がよく口にする言葉が「A1に勝てる力」です。「君たちは将来、A1が発達した社会に生きることになる。今ある仕事はみんなAIがしてくれ、無くなっていく。そして、別に新たな仕事が生まれてくる。そんな社会を勝ち抜いていく力を付けなければならぬ」と子どもたちはそんな言葉で、希望が持てるのか、私には疑問です。

短歌

ラグビー

田上悦子

立山の頂に合いし若者らラグビー応援とマンチエスターから
ONLINE TEAM 二語の力は弱からず三十一文字をや「短歌九条の合こうち」
ひとりでも歌人ふえよと高知民報に綴りてみたりつたなきやき

中村哲さんの死を悼む

山本晶子

広大なる緑の大地に生まれ変わる写真見し感動よみがえる
志 受け継ぐ人々つぎつぎと「徳は孤ならず」孔子の言葉よ
日々些事に追われゆく吾はせめてもと哲氏の記事を切り抜き貼りぬ

シニア体操

叶屋淑子

腹圧を高め筋トレスクワット 膝・腰・肩の痛み溢れて
声上げていきいき・かみかみ・しゃやしやしと土佐発信の百歳体操
四肢伸ばし呼吸吐き吸いて瞑想す ヨガ教室はいのちの時間

俳句

花蘇鉄の四季

小澤 幸泉

初冬や土佐の山々なお遠し
教皇の平和の祈りクリスマス
君恋し君なつかしき冬の道
たつた独り行くあてもなく冬の旅
行儀良く静かな庭に福寿草
立春や御国をおおき厳重ね
寒椿一枝残し取り去られ
独り飲む土佐茶の味の二月かな

川柳

帆傘集

小澤幸泉

温かい医者ほだされ華増え
叱られてまた叱られて強くなる
本当のことは言えない忘れぬ
残されて一人見上げる冬銀河
近く年の日一日と過ぎてゆく
生きていてよかつた君にまた合える
君の死をムダにはしない道半ば

「学力問題を考える」子連総会・学習部

林博子

子どもと教育を守る連絡会(子連)の学習部・総会が2月24日高知城ホールで開かれました。学習部「学力問題を考える」の学びの意欲と教える楽しさを奪う学力テスト体制の下で、高知民主教育研究所の田田益弘さん、濱田郁夫さんから、「全国学力学習状況調査(全国学力)」と2012年から始められた高知県独自の学習状況調査(県版学力)の現状分析と問題提起があり、具体的なテーマや学校現場の実態をもとに学習しました。「学力向上」政策の中で、子どもたちは学ぶ意欲・楽しさを奪われ、教員は子どもたちの実態とはかけ離れた授業づくりを強いられ教員としての誇りややりがいも奪われている現状に大きな危機感を感じました。「学力」とは何か。「個人の価値を尊重して」「人格の完成」を目指すとはどういうことなのか。管理され影響した学校現場の状況を憂えていくために何が必要なのか。現職の先生方・保護者とともに具体的に考えなければいけないと強く思いました。

講演の後、子連の2020年度総会が開かれ、子供一人一人を大切にしたい運動に教職員・保護者・地域で取り組んでいく活動方針を決定しました。

高退協 総会・懇親会
5月16日(土) 高知城ホール 総会
懇親会・新加入と米寿を祝う会
1600 (金費) 4,500円
13:30 ~ 15:30

高教組退職組合員を励まし新加入を祝う会
3月28日(土) 高知城ホール 十七時半